

## 「まかべ幼稚園の今後について」教育委員会としての考え方

6月21日、真壁伝承館において、次年度以降のまかべ幼稚園の運営について、桜川市教育委員会としての考え方をまとめるために、教育委員全員出席のもと、協議をおこなった。

協議においては、昨年度報告書がまとめられた「桜川市立教育・保育施設のあり方検討委員会」で出された意見や、ここ数年間のまかべ幼稚園の入園児の推移、今後の入園対象児の推移、入園児保護者の意見や、民間も含めた幼児教育施設の定員数などの資料について、説明があり、その後教育委員より意見が述べられた。

その中では、桜川市内の少子化傾向の進み方が著しいこと、保護者の働き方の変化や、家庭環境の変化などについて意見が交わされるとともに、幼児教育に求められる内容や質について、やはりある程度の園児の規模がないと、特に小学校入学に備えた集団生活への対応に向けた教育が、難しくなってくるのではないかとの意見が出された。

また、幼稚園における保護者の負担も含め、提供されるサービスには、公立・私立の差がないことなどについても意見が交わされ、その中では、まかべ幼稚園が、3年保育や延長保育への対応を行っていないことが、入園児減少に繋がっているのではないかとの意見もあった。

ただ保護者の中には、公立幼稚園の教育や経営方針に、魅力を感じている方がいることも理解できるので、そのような保護者の声にも配慮をした対応、例えば桜川市立の施設として残す予定である「やまと認定子ども園」の1号認定幼児の教育について、その充実を図るなどの取り組みを望みたいとの意見が出された。

このような状況を踏まえた上で、「まかべ幼稚園にあっては、次年度からの入園児募集を取りやめ、現在園児の年少児（4歳児）については、卒園までしっかりサポートをして、その後閉園とすることで仕方がないのではないか」との意見で集約された。

平成30年 7月23日

桜川市教育委員会